

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

Service News

本が濡れてしまったら...

濡れてしまった本はそのままの状態にしておくと、波打った状態で乾いてしまい、ページ同士が貼りついたり、カビが生えてしまうなど、読むことができなくなる場合があります。図書館ではどのような修理を行っているのでしょうか？



濡れた本のページとページの間に白紙などの吸水紙を1枚ずつはさんで、水分を吸収させていきます。

吸水紙は水分を吸ったらかまめに取り替えながら、プレス機にはさんで乾くまで置いておきます。

早めにきちんと対処することで、濡れた本はある程度修復が可能です。万が一、借りている図書が濡れてしまったら、できるだけ早く図書館へお持ちください。

7月の日比谷データベース講座

VOL.14
「eolを使った有価証券報告書の読み方、そして企業研究」
eolとは国内株式公開企業を中心とした企業情報を配信するデータベースです。
■日時:7月12日(火) 12:15~13:15/18:30~19:30 ※講座内容は各回とも同じ。
■場所:2階 図書フロアカウンター前 ■参加費:無料
※事前申し込みは不要、当日は直接会場へお越しください
次回予告:8月3日(水) VOL.15「朝日新聞 聞蔵Ⅱ」

7月の展示情報

- 2Fホール 「千代田区生きものさがし2016」(～10/31) NEW!
- 3Fホール 日比谷カレッジ「校閲ワンダーランド～自分で調べる、広げる、深める!校正・校閲の仕事とは～」関連展示(～7/6) NEW!
- 3Fグリーンゾーン 「Outdoor」(～10/14) NEW!
今年新たに祝日となる8月11日の山の日や10月14日の鉄道の日に焦点をあて、「自分の世界を広げてみませんか?」をテーマに様々なアウトドアに親しむための展示を行います。
- 3Fブルーゾーン 「此広い世界の劇場～シェイクスピア展～」(～8/12)
シェイクスピアがこの世の舞台を去ってからちょうど400年。その後の演劇がどのように進化・発展していったのか、比較文化の観点から世界の劇場を通して紹介する展示です。

わたしの一冊

『本屋さんのダイアナ』 柚木麻子 著

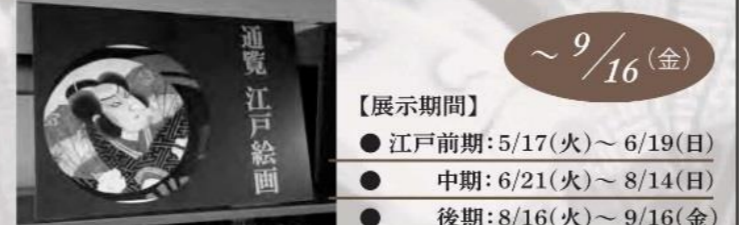
当初スタッフの推薦本を紹介し、おすすめする人、図書館フロア、市川真弓

「私の呪いを解けるのは、私だけ。」小学3年生で出逢った本好きな2人の少女。試練を超えて大人になる、15年間の物語です。

2F パープルゾーン

【江戸・東京】の本を集めたゾーン

「通覧 江戸絵画」



2016年は伊藤若冲が生誕300年、尾形光琳が没後300年目にあたる年です。若冲、光琳をはじめとして江戸時代が生んだ多彩な絵師たちを、画集や関連本で前期・中期・後期の3期に分けてご紹介します。また、彼らが活躍した時代の政治、社会、文化について書かれた本も展示していますので、時代背景と重ね合わせながらお楽しみください。

江戸中期の展示では、現在ブームの若冲を中心に、勝川春章、写楽、円山応挙などを紹介。

日比谷カレッジ報告

絵本カバーで作るエコバックワークショップと絵本の「出版流通」の話

講師:山口聖太郎(好学校)

好学校社の歴史から始まり、図書館の司書が捨てられる本のカバーをリサイクルしたことが、このワークショップの始まりとなったこと、そして絵本業界の現在までをわかりやすく、現場ならではの目線で話していただきました。後半のワークショップでは、レオ・レオニの素敵なカバーを使用し、エコバックを作成しました。和やかなムードのなか、参加者全員が楽しめた講座となりました。

日本プレスセンターが眺めた日比谷と報道の世界40年

講師:春原昭彦(上智大学名誉教授)

講演では、日本記者クラブとその拠点としての日本プレスセンターが設立された経緯について、当時を知る講師からお話しいただき、日比谷の土地と明治以降の新聞報道の歴史的なつながりについても知ることができました。続く見学会では、日本記者クラブの会員専用ラウンジ、フォーリンプレスセンターなど、普段は入れない場所も見られる貴重な機会となりました。



四階特別研究室には古地図や切絵図が多数所蔵されています。江戸時代から昭和初期に描かれた地図からは、変わりゆく東京の姿をうかがい知ることが出来ます。日比谷から時代のタイムトラベルへと出かけてみませんか。

- 【主な所蔵】
- ◆ 明暦開板新添江戸図(1657年)
 - ◆ 江戸切絵図「大名小路絵図」他(1860年)
 - ◆ 大日本鉄道線路全国(鉄道庁/1892年)
 - ◆ 地籍地図附地籍台帳 麹町区(東京市区調査会/1912年)

古地図や切絵図だけではなく、明治時代の洋書や江戸東京の古文書など貴重な古書2万冊が自由に閲覧できます。まさに、そこは本の博物館。想像力や好奇心が広がる空間です。

◆ 開室時間:平日 10時~20時、土曜 10時~18時、日曜・祝日 10時~16時

特別研究室

◎特別研究席...日比谷公園を一望できる特別研究席は、館内の蔵書を自由に閲覧できます。全席に電源コンセントと無線・有線LANを備え快適なスタディールーム、サードプレイスとしてご利用いただけます。

◆ 利用時間:平日10時~20時、土曜10時~18時、日曜・祝日10時~16時
◆ 利用料金:300円/2時間(2時間単位で延長可)

特別研究室展示

『開国五十年史』にみる 明治日本の国づくり自己評価-思想・文化・教育編-

▶9月18日(日)まで開催中

特別研究室所蔵の大隈重信撰『開国五十年史』は、開国以来50年の日本の文明化の道程を広く海外に発信すべく編纂されました。この『開国五十年史』の中から、思想・学術伝来・教育等に関する章の内容と執筆者の事跡をパネルで紹介しています。あわせて『開国五十年史』を読むにあたり参考になる当館の蔵書も展示しています。

■会場:4階特別研究室 ■入場無料

特別研究室の古地図から知る江戸・東京。

- 《関連講座》
- ① 古書で紐解く近代史セミナー第21回 「女子を人として、婦人として、国民として教育する」～明治期女子教育に対する成瀬仁蔵の想い～
講師:小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)
日時:9月1日(木) 19:00~20:30(18:30開場)
 - ② 古書で紐解く近代史セミナー第22回 日本化学研究を拓いた科学者～理研創設者・櫻井錠二が遺したもの～
講師:若林 文高(独立行政法人国立科学博物館理工学研究部長)
日時:9月8日(木) 19:00~20:30(18:30より受付)
- ①②共通 ■会場:4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員:60名 ■参加費:1000円(区民・学生500円)

calendar 開館時間:平日10時~22時 ■土曜10時~19時 ■日祝10時~17時 ■休館日

2016年 7月							2016年 8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				

お問合せ先:千代田区立日比谷図書文化館
〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL:施設代表 03-3502-3340
図書総合カウンター 03-3502-3343 URL:http://hibiyal.jp



7・8月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。
「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

7/15 (金) 千代田区民講座 女性リーダーを生み出すミス日本

講師：和田 健太郎 (ミス日本コンテスト事務局 統括マネージャー)

日本最高峰の美のコンテスト「ミス日本コンテスト」では、日本を代表する真の美しい女性として、容姿だけではなく心の持ちようや社交性などの均整が問われます。1950年の始まりから現在に至るまで、栄誉を手にした女性たちは様々な分野で活躍しています。時代を切り拓く女性リーダーを生み出す育成事業、ミス日本コンテストの貴重なお話を聞きます。
(主催：NPO法人 神田雑学大学)

- 日時：7月15日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：無料



7/20 (水) 世界を変えた薬の歴史

講師：佐藤 健太郎 (サイエンスライター)

医薬品は、歴史が始まる以前から我々の傍らにあり、多くの人々を病から救ってきました。一方で、医薬は使い方を誤れば害毒ともなるため、医薬は歴史に正負両面の影響を与えています。この講座では、医薬という切り口を通して世界の歴史を眺めつつ、医療と人類の現在と未来を考えてみたいと思います。



「歯科手術におけるエーテルの初使用」アーネスト・ボード(1877-1934年) 1910年頃

- 日時：7月20日(水) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：1000円

7/22 (金) 出版社を知るシリーズ第3回 学術専門出版社「雄山閣」の100年

—社史研究者と語る、その存続の理由—

講師：村橋 勝子(社史研究者)、西端 真矢(文筆家)

大正5(1916)年創業、今年100周年を迎える雄山閣は、極めて小さな学術専門出版社です。ベストセラーも滅多にない考古学、日本史、民俗などの学術専門出版をなぜ100年も続けてこられたのでしょうか。社史研究者・村橋勝子先生とその存続理由を探ります。知られざる小出版社の波乱万丈の100年!
(協力：雄山閣)

- 日時：7月22日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円



昭和5(1930)年に新築した雄山閣ビル 東京市麹町区飯田町(現：千代田区富士見)

▶参加申込：電話(03-3502-3340)またはEメール(college@hibiyal.jp)にて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

7/23 (土) ピースビレッジ第44回 腸・細胞・ミトコンドリア ～身体感覚を磨き、「自然体」を取り戻そう

講師：長沼 敬憲 (サイエンスライター&エディター)

この世界で心地よく、自由自在に生きていくためには、何が必要なのでしょう？ 自らのポテンシャルを引き出すカギは、身体を構成する細胞のなかにあります。食事、呼吸、睡眠のあり方、日々のコンディショニングの基本などについて、最新の科学的知見を織り交ぜながらわかりやすく解き明かします。
(主催：NPO法人世界連邦21世紀フォーラム)

- 日時：7月23日(土) 14:00～16:30(13:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：3000円



7/24 (日) グリム童話と日本昔話 —昔話・東西一致の謎—

講師：高木 昌史 (成城大学名誉教授)

わが国に口承文芸学を樹立した柳田国男が強い関心を抱いたテーマは、昔話の東西一致でした。遠く離れた国の昔話が類似しているのは何故なのでしょう？本講座では、柳田のグリム研究を出発点に、昔話の東西一致の謎について考えます。

- 日時：7月24日(日) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：1000円



7/27 (水) 星とふれあう・流星

講師：皆川 敏春(星のソムリエ®みか) / 小幡 真希(星のソムリエ®みか)

「流れ星」と聞いて、願い事を三度唱えると叶う…そんなお話を思い出す人も多いかもしれません。人気の天体であり、時には流星群として度々ニュースにも取り上げられる流れ星ですが、かつては凶事の前兆として恐れの対象でもありました。人びとが流れ星に抱いてきた思いや、その姿を、天文学的な知識と共に学びます。

- 日時：7月27日(水) 19:00～21:00(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円



皆川敏春氏撮影「オリオン」の剣

7/28 (木) 辞書編集者を悩ませる、日本語④ “悩ましく”も面白いことばの世界

講師：神永 暁(小学館出版局「辞書」プロデューサー)

「初老は何歳から？」「弱冠は何歳から何歳まで使えるの？」「明治時代に出現した謎の携帯電話とは？」——昔と今では意味が違ふ言葉がいっぱい！目まぐるしく変わる日本語、それに対応する辞書編集の現場について語ります。
(主催：株式会社ネットアドバンス)

- 日時：7月28日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円



©時事通信社

7/28 (木) 人を育て、勝つための組織づくり(全3回) 第3回 闘う心を緩めない

講師：吉原 知子(プロバレーボール監督) / 吉井 妙子(ジャーナリスト)

過酷なスポーツの世界で数々の栄光をつかんできた名将から、選手力を発揮するための指導法や強いチームづくりについて学ぶ全3回講座。実力も人気も低迷していた日本女子バレーを息事に蘇らせ、優勝請負人の異名を取るプロバレーボール監督の吉原知子氏が、勝利への導き方を対談形式で語ります。
(主催：公益財団法人上廣倫理財団)

- 日時：7月28日(木) 18:30～20:00(18:00開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：500円(千代田区民及び学生は無料) ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。



吉原知子

8/1 (月) 世界の音楽 第7回 アイヌの伝統楽器トンコリ

講師：千葉 伸彦(コムズ奏者)

トンコリはアイヌ民族の中でも、北部地方にだけ伝え残されていた伝統的な弦楽器です。シンプルな5弦の琴(たご)ですが、これで、愛の歌、子守歌、鳥の鳴き声、クマの足音、お祭りでの歌と踊りの伴奏など、様々な曲を奏でます。由来の謎、伝承内容、伝承滅失の危機と復元、アイヌ音楽の世界などについて、演奏をまじえてお話しします。
(協力：東京音楽大学付属民族音楽研究所)



- 日時：8月1日(月) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円

8/3 (水) 宮澤賢治生誕120年記念 「画本 宮澤賢治」を描き続けて

講師：小林 敏也(イラストレーター・デザイナー) / 大島 丈志(文教大学准教授)

独特の世界観で読者を魅了してやまない作家、宮澤賢治。その生誕120年を記念し、宮澤賢治の作品と絵本との関わりや、絵本制作の裏話などについて、装丁やイラストの美しさで知られる「画本 宮澤賢治シリーズ」作者である小林敏也氏と『絵本で読みとく宮澤賢治』共編者の大島丈志氏とが語り合います。

- 日時：8月3日(水) 19:00～21:00(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：1000円



雨ニモ負ケズ(「画本 宮澤賢治」小林敏也 画より)

8/9 (火) HIBIYAイノベーション・キャンパス2016 デザインマネジメントの視点から考える イノベティブ・アクティビティのデザイン

講師：田子 學(MTDO inc.代表取締役 / アートディレクター / デザイナー / 慶應義塾大学大学院SDM研究科特任教授)

いま企業等でイノベーションの創出を目指した様々な活動が始まっています。このような活動を導入する際に重要となる、イノベティブ・アクティビティのデザインについて、デザインマネジメントの視点から実際の現場での取り組みを通して語ります。
(協力：慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属SDM研究所イノベティブデザインセンター)

- 日時：8月9日(火) 19:00～21:00(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：1000円



8/24 (水) 危機を乗り越えるための 「情動的備え」について学ぼう

講師：島崎 敢(国立研究開発法人・防災科学技術研究所特別研究員)

事故、災害、犯罪、テロなど、災いはある日突然やってきます。危機を乗り越えるために何を知らなければいけないのか、そして必要な情報をどう収集し、集めた情報をどう評価するかを知っておくことは大切です。物質的な備えに比べて、見落とされがちな情動的備えについて学びます。

- 日時：8月24日(水) 19:00～20:45(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：500円



◆ 古文書塾でらこや 7月期 特別講座開講 ◆



日比谷カレッジ「古文書塾でらこや」の多彩な講師陣による特別講座を開講いたします。江戸時代を中心とした資・史料、伝書、書状などを用いながら、具体的に歴史の真実に迫ります。各講座とも3ヶ月で全5回の講座を実施します。

- 日時：7月7日(木)～ 順次開講
- 会場：4階 セミナールーム(会議室)
- 定員：各23名(事前申込順。定員に達し次第締切)
- 参加費：各講座共 13,650円(全5回講座・3ヶ月分、別途資料代500円)
- 資料請求、お問い合わせ：電話(03-3502-3340) 古文書塾でらこや担当

※でらこやに関する資料をご希望の方には、無料でご送付いたします。

	講座名	曜日・時間	開講日
特別講座 (3ヶ月) 90分 全5回	自分の花押(かおう)を持ってみませんか	(火) 13:30～	7/12
	大久保利通の手紙を読む	(火) 19:00～	7/12
	浮世絵を読む 定員のため受付終了	(水) 10:10～	7/13
	豪商 三井の発展 —三井文庫史料にみるその実像	(水) 19:00～	7/13
	江戸を楽しむ —続・江戸の寺社あれこれ—	(木) 18:30～	7/7
	絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(入門編)	(土) 10:30～	7/9

Library Shop & Café Hibiya

【ライブラリーショップ&カフェ日比谷からのお知らせ】

詩人、童話作家として今も老若問わず人気のある宮澤賢治。今年はその生誕120年にあたります。当館では、宮澤賢治賞を受賞するなど、高い評価を得ているイラストレーター小林敏也さんを迎え「日比谷カレッジ」での対談(8月3日)や、館内での絵本原画展示(7月19日～8月14日)などを行います。ライブラリーショップでは、「画本 宮澤賢治」シリーズなどの絵本や小林さんデザインのグッズなどを正面平台で陳列します。この機会にぜひお立ち寄りください。

◆ ポモロイ広報室より ◆

奈良時代、日本へと伝わった七夕は、宮中行事として行われ、江戸時代には一般へと広く親しまれる行事となりました。各地方で時期や様々な風習の違いがありますが、誰もが一度は願い事を込めて短冊を飾った思い出があるのではないのでしょうか。今年も日比谷図書文化館では1階ホールにて七夕の笹を飾り、短冊をご用意しています。飾られた短冊は日比谷花壇を通じて仙台にある大崎八幡宮に奉納されますので、ご来館の際には願い事を書いて飾ってください。 7月7日(木)まで